

2024 年全日本大学対抗テニス王座決定試合

< 注意事項 >

○ルール・コードオブコンタクト

ルールは、「JTA テニスルールブック 2024」のテニス規約に基づき、コードは JTA ルールに基づく。

○大会出場にあたって

※ドロー抽選前の上場辞退

エントリー大学がドロー抽選 1 週間前以前に出場を辞退した場合、その大学の地域から、地域学生テニス連盟推薦をもって出場を決める。

※大会前の大会出場大学の不祥事について

地区大会で勝ち上がり、本大会の出場が決定している大学が本大会までに不祥事を起こした場合は各地区の学生連盟と全日本学生テニス連盟との話し合いで、大会出場資格を剥脱する場合がある。

※大会期間中の出場大学の不祥事について

本大会期間中に出場大学が不祥事をこした場合、当該大学を失格とし敗退になる場合がある。

○試合形式

男子の試合は 1 対抗のポイント数は複 3、単 6 の合計 9 ポイントとする。

女子の試合は 1 対抗のポイント数は複 2、単 3 の合計 5 ポイントとする。

男女共に、単複同日に行う。

試合はシングルスがベストオブ 3 タイブレークセットで、ダブルスがベストオブ 3 セット、第 1 第 2 セットはタイブレークセット（アドバンテージあり）、1 セットオールの場合 10 ポイントマッチタイブレーク

使用ボールは公認ダンロップ FORT、ボールチェンジは QF まで 9-11-11、SF、F は 7-9-9 とする。

1R~SF・3 位決定試合:2 球使用 決勝戦:4 球使用

審判：QF まで SCU、SF から全試合主審副審制(両校より輩出、シングルス 1 のみ学連が行い開始から両校より CJ を輩出)

準決勝、3 位決定戦は勝敗が決まり次第、打ち切りありとする。決勝戦は勝敗が決まっている場合のみ 20 時打ち切りとする（その場合 20 時より表彰式を行う）。

○コートサーフェス及び面数

ハードコート

注:天候等の理由により、大会を予定通り終了出来ない場合は違うサーフェスのコートを使用する場合がある。

男子は原則 3 面、女子は 2 面進行とする。また試合進行上、面数を増やすことがある。

○シード順位／ドロー抽選

第 1 シード～第 4 シードまでの順位は、昨年度の王座の大会結果に基づき決定をする。

ドロー抽選の日にちは、出場校が決まり次第発表。

○試合開始時刻(オーダー交換)

ダブルスのオーダー交換を 9:50 に行い 10:00 には試合を開始することとする。また、ダブルスの全試合が終了後、すぐにシングルのオーダー交換を行う。また、シングルのオーダー交換の際に、オーダーの書き直しを行う場合はコートレフェリーに伝え、理にかなった時間でシングルのオーダー交換の時間を遅らせることが可能である。また、シングルのオーダー交換終了後、ダブルスと同様 10 分後には試合を開始することとする。また、出場する選手は必ずオーダー交換時にサービスライン上に整列することを義務とする。また、サブメンバーに関しては後列に整列するかは各大学に任せるものとする。

注 1:オーダー交換時は清潔でプレーに相応しいと認められたテニスウェアを着用しなければいけない。

注 2:オーダー交換後の各大学のミーティングで試合開始時刻が遅れることは認めない。

注 3:オーダー交換時に整列することができるのは部長・監督・部員・マネージャーとする。

注 4:自校の部旗が張ってあるサイドに整列すること。

○試合の順序

男子:ダブルス第 3 位から順次第 1 位、その後シングルス第 6 位から順次第 1 位。* 1

女子:ダブルス第 2 位から順次第 1 位、その後シングルス第 3 位から順次第 1 位。

ダブルスに出場していない選手同士の対戦はダブルスのオーダー交換の 10 分後に試合に入るものとする。この場合シングルス 2 まで適用される。シングルス 1 は最後に入る。

* 1 ダブルスのレスト考慮で早い順に入れるためこの限りではない。

○服装

(1)選手の服装

選手の服装はテニスウェアであれば色は問わない。

しかし、試合中のウォームアップスーツ、トレーナーの着用は認めない。(試合中のベスト、セーター、カーディガンの着用は認める)

(2)ロゴ

ロゴは「JTA テニスルールブック 2024」に基づく。

(3)大学のロゴ

大学のロゴについて、大きさの規定はない。

(4)コンプレッションショーツ・コンプレッションスリーブの着用

「JTA テニスルールブック 2024」に基づく。

○オーダーについて

今年度、全日本大学対抗テニス王座決定試合のオーダー規約に基づく。

重要

1.大会の結果は全て大会終了時の対戦結果に基づくものとする。そのため、ラッキーローザー等で本戦大会に出場した選手は本戦選手扱いとなる。また、大会前等のドロー表には名前が載っていたが、怪我等で辞退することになりドロー表から名前が消去された場合はその大会に出場していないものとする。

2.各種ランキングは全日本学生テニスランキングは本大会ホームページ上で発表、JTA ランキングは2024年第42週時点を使用する。各自注意深くオーダー規約を確認することを推奨する。

○オーダー用紙の交換方法

必ず式次第時に相手校提出用と学連提出用の2枚を用意する。両校主将挨拶時に、相手校用を相手校主将に、学連提出用をその場で式次第を行っている学連に提出する(学連提出用を大会本部に提出することがないように)。

重要

今大会では、オーダー交換が上記の方法で行われず、オーダー交換に不備があった場合はペナルティが課せられる。

(以下参照)

各地域でのリーグが以上の方法で行われていない場合は、王座出場校に以上の方法を教えるのは各地域学連の義務とする。

○オーダー用紙について

1. オーダー用紙はコピー可能。(同じサイズのみ)
2. オーダー用紙の様式は、当連盟指定の用紙に毛筆またはペン書き(黒または青)とする。
3. 名前はフルネームで記入すること。また、必ず横に振り仮名も記入すること。
4. 日時など数字を記入する箇所は漢数字でも算用数字でも可能。
5. 式次第のときにオーダー用紙がない場合、その当該校にペナルティを科す(以下参照)。
6. 大学名は正式大学名称で記入すること。分からない場合は相手校に確認する。
7. オーダー用紙を封筒に入れる必要はないが入れても構わない。
8. 訂正箇所(修正液不可)には2重線を引き、部印がそれにかかるように押すことによって訂正を認める。

○オーダー順位について

オーダー規約に基づいてダブルス・シングルスそれぞれのオーダー用紙に記入すること。順位の書き間違いによるペナルティは「○オーダー・オーダー用紙のミスのペナルティについて」を参照すること。

○オーダー・オーダー用紙のミスのペナルティについて

オーダー順位は、オーダー規約に基づくものとする。

1. オーダー規約にもとづかない順位で発表されたオーダーに関しては
・その誤りのあった対戦を没収(ダブルスとシングルスどちらのオーダー交換時も共通)

例)本来「A・B・C」の順で固定であったオーダーを誤って「A・C・B」の順で提出し、相手校に提訴された。→BとCの試合を没収、提出した大学側の2敗となる。

これらの処置は、相手校の主将・主務・質疑権所有者の提訴があった場合にコートレフェリーがとる。

注1:オーダー規約の違反に対しての提訴は、複・単共に、その試合終了までとする。

注2:主将・主務・質疑権所有者以外からの提訴は、受け付けない。

注3:オーダー規約を確認するための過去の地方大会の資料の貸出は学連から行わない。

2. 記入ミスについて

例)部印がない、氏名・大学名の漢字が間違っている場合など(違う大学名が書いている場合などは除く)

・特に罰則はない

3. 試合開始のダブルスオーダー交換時に、学連提出用と相手校提出用のどちらかが無い、またはどちらのオーダー用紙も無いという場合。

・ダブルス全試合 1st セットダウンから開始。

4. ダブルス終了後のシングルスオーダー交換時に、学連提出用と相手校提出用のどちらかが無い、またはどちらのオーダー用紙も無いという場合。

・シングルス全試合 1st セットダウンから開始。

○試合前のプラクティスについて

当日試合がある大学には朝のプラクティスコートが振り分けられる。コート時間の詳細はオーダー・オブ・プレーを参照すること。また、各試合前に5分間のウォーミングアップが与えられる。

○練習ボール・練習コート

練習ボールは各校で用意すること。

練習コートは、当日試合のない大学は朝のプラクティスを貸し出さない。朝のプラクティスコートはHP上の OOP に記載されているコートと時間で行うこと。

○トイレットブ레이크

(男子)

1 試合にシングルス 1 回、ダブルス 1 組 1 回、トイレを理由に原則としてセットブ레이크時に理にかなった時間でとることが出来る。ただし、状態が深刻であるとアンパイアが判断したときは、緊急措置としてセットブ레이크以外でもトイレットブ레이크が認められる。

(女子)

1 試合にシングルス 1 回、ダブルス 1 組 2 回、トイレ又は着替えの理由で、セットブ레이크時に理にかなった時間でとることが出来る。トイレに関しては、状態が深刻であるとアンパイアが判断したときは、緊急措置としてセットブ레이크以外でもトイレットブ레이크が認められる。着替えはセットブ레이크時のみとする。

注1：選手はコートに最も近いトイレを利用しなくてはならず、トイレットブ레이크中はベンチコーチ、監督、コーチ、観客等と話してはならない。コートレフェリーまたラインアンパイアが選手についていく。

注2：認められた回数分のトイレットブ레이크をすべて使った後、必要であればトイレに行くことができるが、各セットの1ゲーム終了後を除くエンド交代時は90秒以内、セットブ레이크時は120秒以内にプレーを再開しなければならない。再開できない場合はコードバイオレーション(不当なゲームの遅延)が科せられる。

注3：レフェリーが許可した場合を除き、トイレットブ레이크とメディカルタイムアウト(MTO)を連続して取ることはできない。

注4：トイレットブ레이크をトイレ目的以外で使用するなど、ルールを濫用したとレフェリーに判断された場合はコードバイオレーション(スポーツマンシップに反する行為)が科せられる。

注5:ウォームアップ中も試合中と同様、回数に数える。

注6:トイレットブ레이크は、コートレフェリーがついていく。

○レストの時間について

レストの時間は本大会でダブルスからシングルスを行うため、以下のように定める。

試合時間 60分未満:30分

60分以上 90分未満:40分

90分以上:60分

注1:レストの時間はシングルの試合の有無に関わらず、ダブルスの試合を行った選手全員に確認する。

○ボールパーソン

ボールパーソンは原則1試合につき1名、各大学から出すものとする。ボールパーソンは必ずテニスウェアを着用すること。また、色に関しての指定はしないが選手の目につく色はなるべく避けるように心がける。部員不足等の理由によりボールパーソンが出せない大学は試合前日までに学連に申し出ること。

注1:ボールパーソンは選手やベンチコーチ等と会話してはならない。(場合によっては選手のコーチングペナルティ対象になる場合がある。)

注2:ボールパーソンの交代は認めるが、原則としてセットブ레이크時のみとする。

注3:ボールの渡し方などは原則として自由である。

注4:選手にタオルを渡すことは可能だが、会話をしてはならない。

○ベンチコーチ

エンドチェンジの90秒間、セットブレイク時の120秒間にベンチコーチから選手はコーチングを受けることができる。(各セット1ゲーム終了後、またタイブレイク時のコートチェンジ間ではコーチングをしてはならない)

ベンチコーチは事前申請用紙に提出された学生若くは部長・監督・コーチが行うことができる。ベンチコーチの交代は自由。交代の際は主審に伝えて後、入ることができる。

※ベンチコーチのペナルティは1回目注意、2回目が警告、3回目は退場とする。また、退場した場合その試合中の代理は認められない。

注1:ベンチコーチは必ずテニスウェア・テニスシューズを着用すること。

○質疑権所有者

質疑権は、各大学主将・主務の一方にある。だが、主将主務両名が試合やベンチコーチ等でコート内に入り不在の場合は、他の部員が代理として質疑権所有者となることを認める。

各主将・主務は試合前、および試合進行中に質疑権の所在をコートレフェリーに明らかにしなければならない。質疑権所有者:試合進行上でコートレフェリー(レフェリー)に質疑する権利がある。しかし、ジャッジ等でもめたときにコート内に入ることが出来ない。

選手:チェアアンパイアは事実問題について判定し、その判定が最終裁定となる。チェアアンパイアは選手の要求によってオーバールールしてはならない。試合中の法的問題は、最初にチェアアンパイアによって裁定される。チェアアンパイアが不明の場合、またはその選手がその裁定を提訴した場合、その後の最終裁定はコートレフェリー(レフェリー)が行う。

○応援

声出し応援可能。(近隣住民の方々の迷惑にならないよう、節度を持って控えめに行うこと。苦情が入った場合、拍手のみ等の対応をとる場合がある。過度な応援に対しては、注意、ペナルティを課す場合がある。)

歌応援は禁止とする。

罵声を発する、ジェスチャー・器具を用いて、相手校、相手校選手・審判などの心理を攪乱させるような行動及びプレーの妨げになるような行為をしてはならない。

学生スポーツ精神に反し、良識を欠くとみなされる場合は、レフェリーが客観的に判断して処分する。

○ヤジなどの不正な応援に対するペナルティ

チーム戦での応援妨害や不正応援

選手のプレーを妨害する応援や他人に不快感を与える応援は全てペナルティの対象になる。

主将・主務・質疑権所有者の提訴があった場合、コートレフェリー、またはレフェリーの判断で決める。また、限度を明らかに超えていると判断した場合は提訴がない場合でもペナルティを課すことがある。

1 度目:警告

2 度目:当該コートのみ拍手のみの応援(このペナルティはその対戦の間のみとする、次戦には持ち越さない。)

2 度目:当該コートのみ応援禁止(このペナルティはその対戦の間のみとする、次戦には持ち越さない。)

3 度目以降:全コート応援禁止(このペナルティはその対戦の間のみとする、次戦には持ち越さない。)

以上の注意警告を行われても、なお良識を欠くと判断されるような応援が続く場合は、学連内で会議を行い新たな罰則を科す事もある。

○応援に関する注意事項

・OB・OG、その他の方が観戦、応援をしていた場合もその大学の応援としてみなし、厳重な処罰を行う。各大学は責任をもって事前説明を行うことを推奨する。

・道具(太鼓・メガフォン・旗)を使っての応援は一切禁止とする。

○メディカルルール

「JTA ルールブック 2024」に基づく。

注1:本大会にはオフィシャルトレーナーが常駐する。試合中(ウォームアップを含む)のケガの診断と治療が必要か否かの判断はオフィシャルトレーナーが行う。治療は自校のトレーナーも行うことができるとするが、メディカル・タイムアウト(MTO)の場合は判断が下された後に遅滞なく速やかに治療を開始しなくてはならない。

注2:自校のトレーナーが診断によって治療が必要とされた身体の部位とは関連のない部位の処置を行ってはならない。

注3:メディカルルールを濫用したとレフェリーに判断された場合はコードバイオレーション(スポーツマンシップに反する行為)が科せられる。

○物資の持ち込みや要求について

物資を持ち込む際は必ずコートレフェリーを通すこと。コート内へ勝手に運んだ場合、ペナルティの対象となる

ことがある。また、試合中、物資が必要となった際は審判にコートレフェリーを要求し、対応すること。

○トレーナー

本大会はオフィシャルトレーナーが常駐する。そのため、試合中（ウォームアップを含む）の怪我はすべてオフィシャルトレーナーが診断を行う。診断の結果、治療が必要だとオフィシャルトレーナーが判断した場合は自校のトレーナーにより治療にあたる。

○表彰式・閉会式について

3位まで入賞した大学は表彰式並びに閉会式への参加が義務である。諸事情により参加できない場合は、大会ディレクターまで申し出ること。

○主将主務会議について

当日試合がある大学の主将、主務は毎朝8時40分から主将主務会議に参加すること。その際に、当日の注意事項の確認を行う。

代理を出席させることは可能。その際の委任状などの提出は行わなくてよい。

○試合の棄権・退場処分について

・選手が痙攣や怪我等でこれ以上試合の続行が難しい場合、レフェリー・トレーナーの判断により強制的に、棄権させることがある。これは、当該選手の今後の選手活動を最大限考慮した結果であり、これに対する質疑は可能だが、提訴は行えない。

・選手の行動や言動により、警告なしで当該選手を失格させることがある。これは、大会委員長・レフェリーの判断によるもので、これに対する質疑は受ける抗議は受け入れない。また、失格選手は大会期間中のすべての種目に参加することはできない。

・応援に関しても、ひどい場合は警告なしで退場させることがある。これは、大学の監督・コーチ・選手・OB等に対し行う。また、一度退場になった者は、大会期間中、応援を一切行うことができない。

○旗・ベンチ

各大学の旗はコート選択権のある学校が決めることができる。ベンチも同様である。

○その他の注意事項

・パラソルはチェンジコート間のみ開いてもよい。

・準決勝、3位決定戦、決勝戦（20時以降）以外の試合は勝敗が決まっても原則として打ち切りにはしない。雨天時や試合進行が大幅に遅れている場合はこの限りでない。

・ナイター使用は原則21時まで。